

日本版EHR フィールド3（共通診察券）

「共通診察券を活用した 情報連携活用基盤構築の実証実験」

状況報告

しまね健康情報活用推進コンソーシアム

目次

1. しまね健康情報活用推進コンソーシアム 概要	1
2. 実証実験実施体制	2
3. 平成23年度総括	3
4. アプリケーションの概要	
4. 1 情報連携全体イメージ	4
4. 2 サービス概要	5
4. 3 処方情報の電子化のデータフロー	6
4. 4 処方情報の電子化画面イメージ	7
5. 検証項目	
5. 1 機能評価	8
5. 2 定性的効果	9
5. 3 定量的効果	10
6. 各主体に期待される主な効果	11
7. 今後のスケジュール	12
8. 地域協議会の運営概要	13

1. しまね健康情報活用推進コンソーシアム 概要

「しまね健康情報活用推進コンソーシアム」

一般社団法人出雲医師会（コンソーシアム代表）

会長 堀江 卓史（役割）
主担当者 理事 児玉 和夫

- ・全体とりまとめ ・地域協議会の運営
- ・実証フィールド（診療所）とりまとめ
- ・実証実験の評価 ・カード運用管理

社団法人大田市医師会

会長 根宜 祐平（役割）

- ・実証フィールド（診療所）とりまとめ
- ・実証実験の評価

島根県立中央病院
島根大学医学部附属病院
大田市立病院

（役割）実証フィールド

社団法人島根県薬剤師会

（出雲・斐川支部）（役割）

- ・調剤薬局の取りまとめ
- ・処方情報の電子化の評価

出雲市
大田市

（役割）

- ・実証実験の評価、課題抽出

富士通株式会社

主担当 ヘルスケアソリューション事業本部 医療システム事業部
（役割）システム開発プロジェクト管理、システム開発

株式会社テクノプロジェクト

主担当 地域ソリューション事業部（役割）システム開発支援

実証実験協力機関

遠藤クリニック
太田医院
児玉医院（湖陵町）
児玉医院（西神西町）
すぎうら医院
角医院
知井宮堀江医院
ふじのクリニック

うめがえ内科クリニック
小野医院
須田医院
やまうち内科
わだ耳鼻咽喉科医院

島根県薬剤師会
（大田支部）

2. 実証実験実施体制

+N

昨年度との差異

○ プロジェクトリーダー：一般社団法人出雲医師会 理事 兒玉 和夫

参加団体種別	参加団体名	情報開示 施設数
病院 (3施設)	島根県立中央病院、島根大学医学部附属病院、大田市立病院	2 +1
診療所 (13施設) +3	知井宮堀江医院、兒玉医院、すぎうら医院、遠藤クリニック、角医院、ふじのクリニック、太田医院、神西兒玉医院、小野医院、うめがえ内科クリニック、やまうち内科、須田医院、わだ耳鼻咽喉科医院	12 +3
薬局 (25施設) +5	しまね薬局大田店、あんず薬局、出雲薬局、いちご調剤薬局北本町支店、きらら薬局、サン・メディカル薬局、すずらん薬局、知井宮ふれあい薬局、調剤薬局くすりのファミリア、つくし薬局、つくし薬局小山店、なかの薬局、服部薬局出雲支店、ファーマシィくにびき薬局、ファーマシィすこやか薬局、ファーマシィひかわ薬局、ファーマシィまごころ薬局、フラワー薬局、フラワー薬局平田店、平安堂薬局渡橋店、まきの薬局、みどり薬局、もも薬局、やまだ薬局（他1か所調整中）	7 +2
自治体 (実証フィールド)	出雲市、大田市	-

○ 協力機関・団体：一般社団法人出雲医師会、社団法人大田市医師会、
社団法人島根県薬剤師会（出雲・簸川支部、大田支部）、
富士通株式会社、株式会社テクノプロジェクト

3. 平成23年度総括

平成23年度事業では、出雲医療圏（出雲市及び旧斐川町）及び大田医療圏（大田市）において、地域内の医療機関、調剤薬局、住民、消防機関が健康情報活用基盤の実証に参加し、診療予約サービス、診療情報閲覧サービス、健診情報閲覧サービス、処方情報電子化サービス、調剤情報閲覧サービス、救急空床情報開示サービスに係る実証を行いました。

実証実験の結果、**各サービスの有効性が確認**され、右図に示す通り利用がはかられました。

住民のEHR利用状況

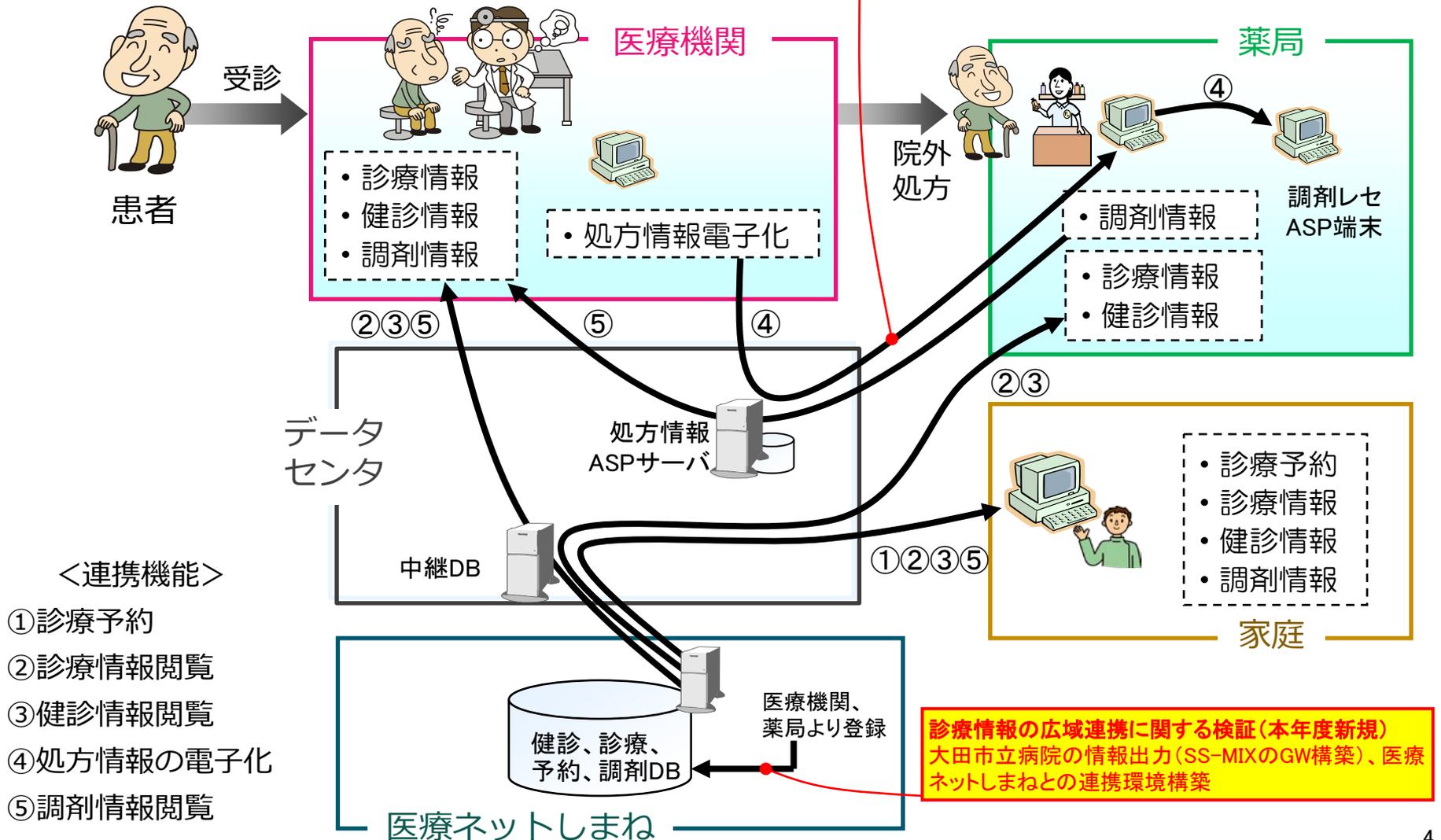
	11月	12月	1月	2月	計
ログイン	31	128	180	248	587
診療情報照会 調剤情報照会	45	103	685	1,671	2,504
健診記録照会	11	9	209	42	271
診療予約一覧	35	73	421	761	1,290

※単位は(件)。

No.	主な課題	対応状況
1	医療機関職員のシステム操作で、パソコン操作が不慣れであったり、画面などにデータを入力する際の操作について課題が上げられた。	簡易マニュアルの整備を行います。 医療機関での利用頻度を上げるため、利用者拡大を参加医療機関でPRを行います。
2	処方情報の運用として、医療機関で処方した情報が、調剤薬局で患者到着前に分かれば調剤準備ができ、患者の対応がスムーズに行えるとの意見がありました。	調剤薬局端末に 処方情報事前通知機能 （患者が医療機関で調剤薬局を指定すると、調剤薬局端末でそれが確認でき調剤準備を行うことができる）の 実装 を行います。
3	対象機関・地域の拡大については、「全県にサービスを広げてほしい」、「かかりつけ医が実証実験に参加していない」、「参加医療機関がもっと多いと使いやすい」などの意見があり、サービスを充実するためには対象機関や地域の拡大の必要性を認識しました。	対象機関や地域の拡大については、 医療圏をまたがる広域連携の実施 や 参加医療機関および参加薬局を増やす ことで対応します。なお、島根県全県レベルでの地域医療再生事業にて引き継がれ、本格運用として実施されることが計画されています。当事業のノウハウ・成果を十分活かしたシステム構築が期待されます。

4.1 アプリケーションの概要 ～ 情報連携全体イメージ

医薬連携の広域連携に関する検証(本年度新規)
処方情報電子化に関する機能拡張



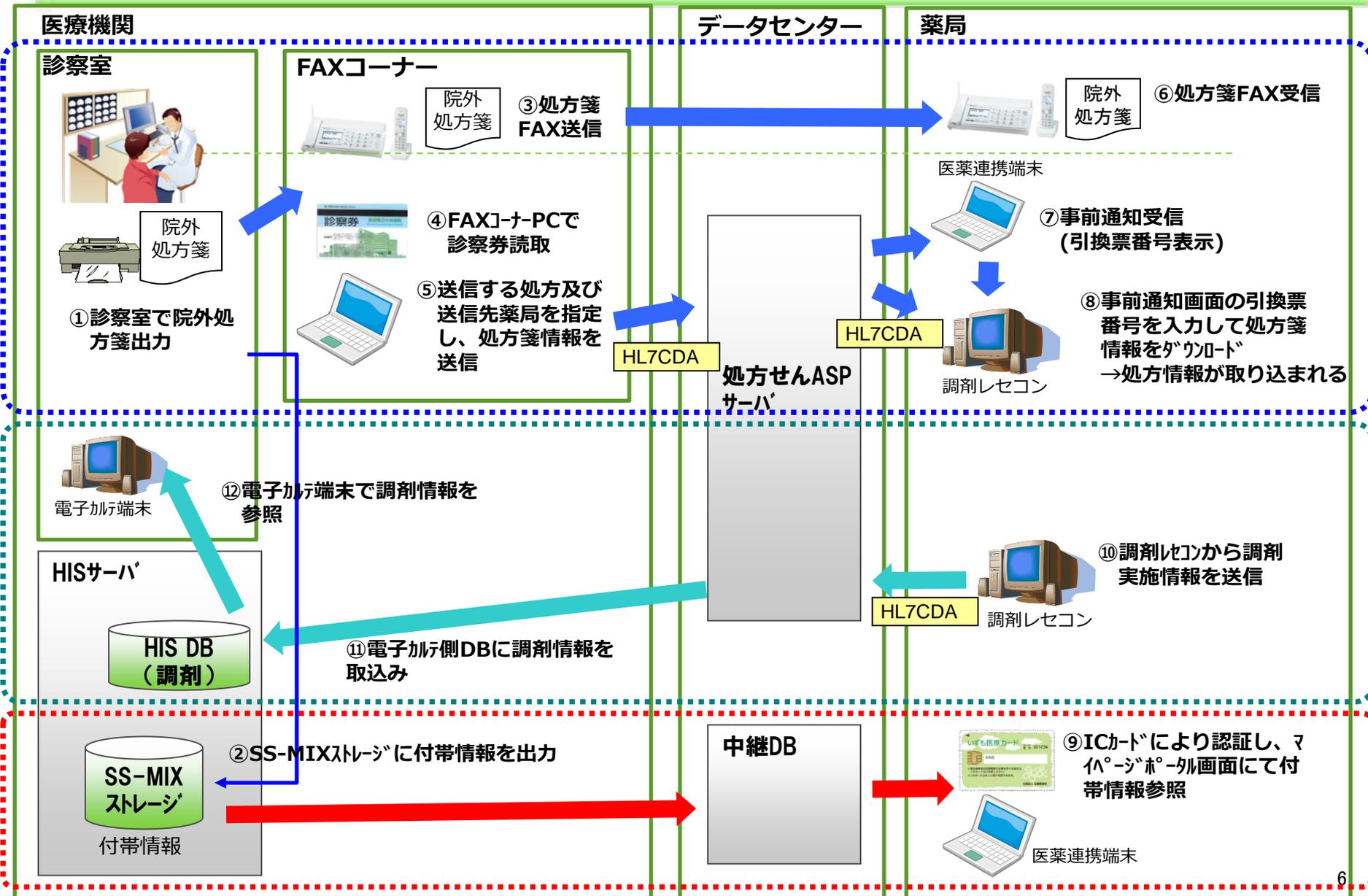
4.2 アプリケーションの概要 ～ サービス概要

赤字 昨年度との差異

機能	概要
①診療予約	<ul style="list-style-type: none">患者が自宅より直接医院への診療の予約を行えるサービスの提供を行う。
②診療情報閲覧	<ul style="list-style-type: none">診療情報のうち、主に検体検査結果情報および処方歴情報を公開対象として診療情報閲覧サービスの提供を行う。中核病院としては、県立中央病院に加え、本年度は大田市立病院の保有する診療情報の閲覧が可能になる。
③健診情報閲覧	<ul style="list-style-type: none">健診ネット（医療ネットしまね）に参加している医療機関によって登録された健診情報を公開対象として、健診情報閲覧サービスの提供を行う。
④処方情報の電子化	<ul style="list-style-type: none">医療機関にて処方された処方指示情報をデータベースに登録し、調剤薬局の調剤レセコンからの要求に応じて処方指示情報のレセコンへの取り込みを行う。調剤レセコンにて登録された処方実施情報をデータベースに登録する。本年度は、島根県立中央病院からの処方情報の取扱いが可能になる。
⑤調剤情報閲覧	<ul style="list-style-type: none">医療機関および患者自宅からの情報照会要求に応じて、データベースに登録された処方実施情報の画面表示を行う。

4.3 アプリケーションの概要

～処方情報の電子化のデータフロー～



4.4 アプリケーションの概要 ～処方情報の電子化画面イメージ

病院FAXコーナー端末画面

処方情報送信システム

診察券をカードリーダーに読み込ませてください



患者番号: 98-80-02-5

処方一覧 (平成 24 年 09 月 26 日処方分)

処方時刻	診療科	処方医師名	処方内容参照	
11:16	整形外科	テスト 医師 2	1 アモバン錠 7.5mg 錠・カプセル服用できず粉砕又は簡易感傷 【内服用法】 1× 毎朝	1 錠 2 日分
15:27	整形外科	テスト 医師 2	2 ザンタック錠 150mg 錠・カプセル服用できず粉砕又は簡易感傷 【内服用法】 2× 朝夕食後	2 錠 2 日分
			3 アルガミン内服錠 10% 1Cm1包 【内服用法】 2× 朝夕食後	3 錠 2 日分

備考: 薬単位のコメント

処方内容参照

送信先調剤薬局一覧

薬局名	住所
株式会社テクノプロジェクト薬局1号店	鳥根県松江市学園南2-10-14タイムプラザビル
株式会社テクノプロジェクト薬局2号店	鳥根県松江市学園南2-10-14タイムプラザビル
株式会社テクノプロジェクト薬局3号店	鳥根県松江市学園南2-10-14タイムプラザビル
株式会社テクノプロジェクト薬局本店	鳥根県松江市学園南2-10-14タイムプラザビル
株式会社マツケイ薬局	鳥根県松江市学園南2-10-14タイムプラザビル
テクノ診療所	松江市学園南2丁目 10-14

送信

キャンセル

薬局医薬連携端末画面

処方情報到着一覧

処方日時	医療機関名	患者氏名	番号
2012/09/28 10:12	鳥根県立中央病院	鳥根 太郎	1234 - 8754
2012/09/28 10:13	鳥根県立中央病院	山田 次郎	1238 - 1527
2012/09/28 10:45	鳥根県立中央病院	姫原 花子	1254 - 7391
2012/09/28 11:08	鳥根県立中央病院	中野 一郎	1256 - 2438
2012/09/28 11:45	鳥根県立中央病院	出雲 修二	1263 - 0802

5.1 検証項目 ～ 機能評価

◆検証項目

検証テーマ	検証項目
(1) 診療情報の 広域連携に 関する検証	①中核的医療機関から情報を出力する際におけるSS-MIXのゲートウェイを構築するために必要となる機能仕様、連携インターフェースに関して、主に運用性、利用者の利便性の観点から検証を行う。
	②医療・健康情報を中核的医療機関・診療所・薬局・個人が閲覧する際に、二次医療圏を超えた場合であっても、適切な認証を行い、情報の真正性を確保した上で遅滞なく情報の閲覧を可能とする閲覧機能に関する仕様について検証を行う。検証は、実証実験に係るシステムが準拠すべき関連ガイドラインとの適合性を確認することにより行う。
	③二次医療圏を超えた医療・健康情報等の共有に関する検証を行う。検証は、主に運用性、利用者の利便性の観点から、規模効果、利便性の向上について、費用負担のあり方、運用のあり方にも言及しながら実施する。
(2) 医薬連携の 広域連携に 関する検証	①二次医療圏を超えて、中核的医療機関から薬局への処方情報の事前送信を行うにあたって、必要となる機能仕様及び連携インターフェース、事前送信を行うサービスに関して検証を行う。検証は主に運用性、利用者の利便性の観点から実施する。
	②薬局での患者の付帯情報（中核的医療機関の診療情報等）参照機能に関して検証を行う。検証は、主に運用性、利用者の利便性の観点から実施する。
	③薬局が行った調剤結果を、処方を実施した医療機関の電子カルテへ反映する際に、情報の真正性を確保した上で反映することを可能とする技術的・機能的要件について検証するとともに、当該機能の利便性についても検証する。検証を踏まえた結果を技術仕様として取りまとめるとともに、策定した技術仕様については普及促進のための方策をとる。

◆採用する調査手法

設計書等とりまとめ —— (1) ①②③、(2) ①②③

積算比較 —— (1) ①

ログ集計 —— (1) ②

ガイドライン適合性チェック —— (1) ②

地域協議会での検討 —— (1) ③、(2) ③

所要時間実測 —— (2) ①

技術仕様書作成 —— (2) ③

5.2 検証項目 ～ 定性的効果

◆検証項目

検証対象	検証項目
(1) 医療機関	①1日当たりの情報連携活用基盤の平均参照件数 ②閲覧する医療・健康情報の具体的内容及び参照目的 ③情報連携活用基盤利用に対する課題 ④1回当たりの情報連携活用基盤の平均参照時間数 ⑤今後の情報連携活用基盤の継続利用希望割合 ⑥情報連携活用基盤及び共通診察券の運用に対する課題
(2) 薬局	①1日当たりの情報連携活用基盤の平均参照件数 ②閲覧する医療・健康情報の具体的内容及び参照目的 ③情報連携活用基盤利用に対する課題 ④今後の情報連携活用基盤の継続利用希望割合
(3) 自治体	①EHR利用に対する課題 ②今後のEHRの継続利用希望割合 ③EHR及び共通診察券の運用に対する課題
(4) 患者	①情報連携活用基盤の利用者数（自身の情報閲覧、医療機関での情報提示別に） ②閲覧する医療・健康情報の内容及び閲覧目的 ③情報連携活用基盤による医療機関のサービスの満足度 ④情報連携活用基盤及び共通診察券の利用に対する課題（自身の情報閲覧、医療機関での情報提示別に） ⑤1患者当たりの医療・健康情報の平均閲覧回数 ⑥今後の情報連携活用基盤の継続利用希望割合

◆採用する調査手法

ログ集計 ————— (1) ①②④、(2) ①②、(4) ①②⑤
アンケート調査 —— (1) ③⑤⑥、(2) ③④、(4) ③④⑥

ヒアリング調査 —— (3) ①②③

5.3 検証項目 ～ 定量的効果

◆検証項目

検証対象	検証項目
(1) 医療機関	①病院・診療所間における情報連携による省力化、効率化の効果（例：重複検査の減少率）
	②医療機関における薬局との連携による省力化、効率化の効果
	③診療予約による患者診察待ち時間の減少率
	④1患者あたりの平均診療時間に対する影響
(2) 薬局	①情報連携日本版EHRを参照することで発覚して重複調薬等を回避した件数及び相当額
	②薬局における処方情報の入力ミスの減少率
	③薬局における処方情報の入力時間の減少率
	④処方情報の事前送付による調剤交付業務効率に対する効果
(3) 患者	①慢性疾患患者などのバイタルデータ（例：血圧、血糖値など）の改善率
	②慢性疾患患者などの重症化防止による疾患罹患率の減少率

◆採用する調査手法

留置き調査票 ————— (1) ①②③④、(2) ①、(3) ①②
 アンケート調査 ————— (2) ②

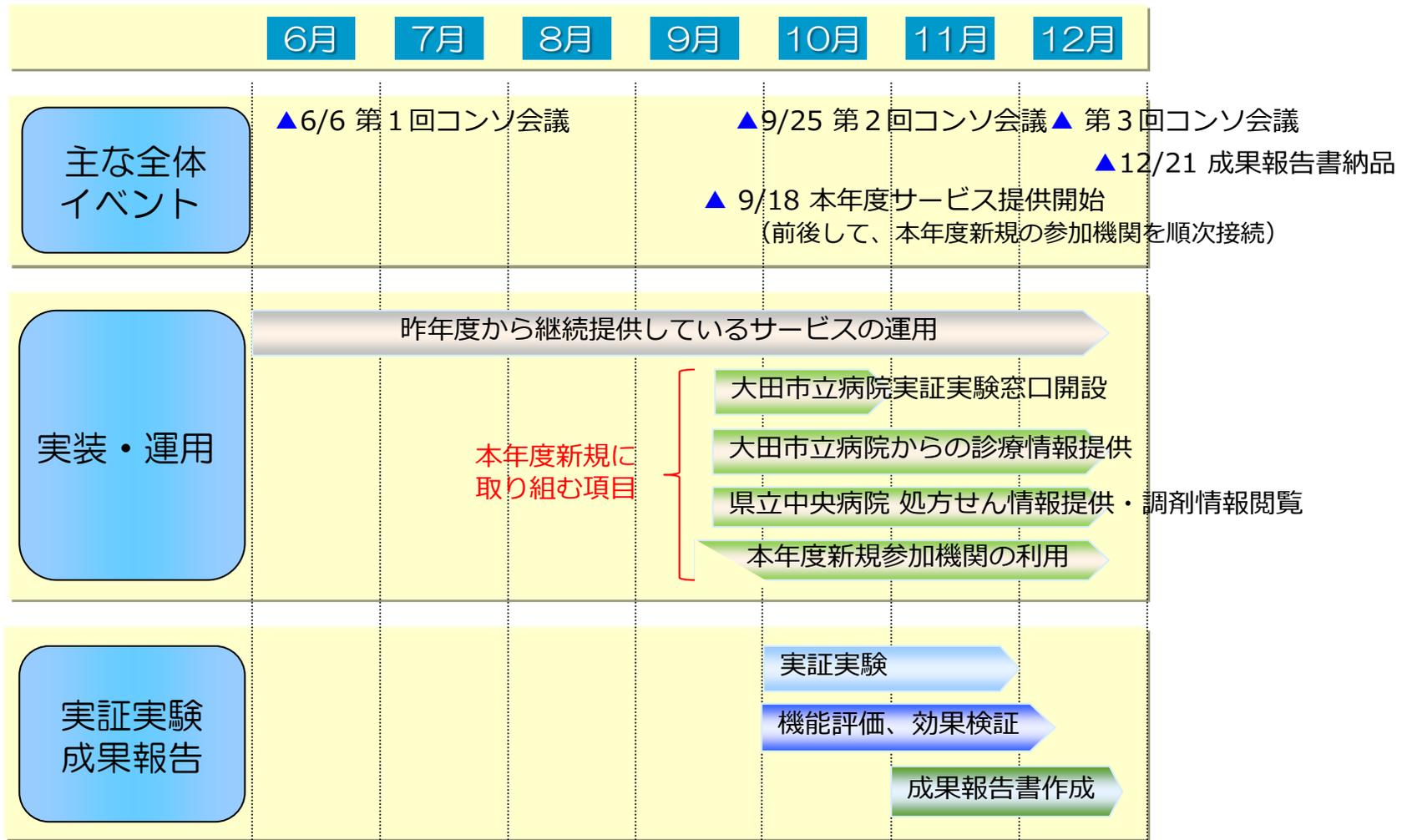
所要時間実測 ——— (2) ③④

6. 各主体に期待される主な効果

赤字 昨年度との差異

主体	期待される効果	
医療機関	診療情報サービスの利用	履歴など、診療のベースとできる情報が増える。口頭での診療歴聴取に依らず、正確な情報をもとに診断が可能となる。初診時にもあらかじめ情報が得られる。
	健診情報サービスの利用	医師・医療資源の充実に差がある隣接する二次医療圏の間での医療機関連携の促進に寄与する。
	調剤情報の閲覧	処方後の調剤結果を知ることができる。
薬局	診療情報サービスの利用	患者への処方に関し、より詳しい背景を知ることができ、より適切な調剤を行うことができる。
	健診情報サービスの利用	
	処方情報電子化サービスの利用	医療機関での処方から調剤薬局での調剤までの情報連携の流れが電子化され、事務の効率性・確実性が高まる。 中核病院を含めた効率性・確実性向上につながる。
患者	診療情報サービスの利用	医療機関における処方や検査結果、健診情報、調剤情報が参照でき、健康増進につながる。
	健診情報サービスの利用	
	診療予約サービスの利用	自宅等からいつでも予約ができ、利便性が高まる。
社会全体	医薬分野での健康情報活用基盤の利用拡大	住民の健康増進医療費抑制、患者の負担の軽減地域医療のイメージ向上、関係主体間の人的連携の促進情報リスクの低減、セキュリティ意識の向上

7. 今後のスケジュール



【運用サービス】

診療情報閲覧、健診情報閲覧、診療予約、処方情報の電子化、調剤情報閲覧、ICカード運用、サポートセンター運用

8. 地域協議会の運営概要

■ 名称

「しまね健康情報活用推進コンソーシアム会議」

■ 構成員

会長 : 一般社団法人出雲医師会 堀江会長

副会長 : 社団法人大田市医師会 根宜会長

診療所 : 出雲医師会診療所、大田市医師会診療所

病院 : 島根県立中央病院、島根大学医学部附属病院、大田市立病院

薬剤師会 : 社団法人島根県薬剤師会（出雲・簸川支部）

自治体 : 出雲市、大田市

ベンダー : 富士通株式会社、株式会社テクノプロジェクト

■ 開催スケジュール

第1回：6月6日開催。第2回：9月25日開催、第3回：12月開催予定。

各医療圏で、出雲地域WG、大田地域WGを適宜開催。

■ 検討内容

プロジェクト全体の進捗、スケジュール等確認。

システムの仕様、運用に関する協議。

実証実験に関する協議。